



人と人をつなぐ、
あなたの
ベストパートナーで
ありたい。

株主通信

2013年4月1日～2014年3月31日

IK 稲畑産業株式会社

主力事業を中心に着実に成長、 収益力を向上させ、さらに一段高い目標へ



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2013年4月1日から2014年3月31日における事業の概況をご報告させていただきます。

代表取締役社長 **稲畑勝彦**

当期の概況について

当連結会計年度における世界経済は、中国における景気拡大テンポの鈍化やインドでの景気減速がみられましたが、一方で米国での回復や、欧州主要国において持ち直しへの動きがあり、緩やかに景気回復が続きました。

また日本経済も、堅調な株式市場に支えられ、雇用情勢の持ち直し、個人消費の伸長、円安による輸出環境の好転などが進み、企業収益の改善を受けて、同様に緩やかに景気回復が進みました。

こうした中、当社グループの連結ベースでの売上高は、561,173百万円(対前期比16.9%増)となりました。利益面では、営業利益10,936百万円(同40.8%増)、経常利益12,454百万円(同29.7%増)、当期純利益8,669百万円(同30.7%増)となりました。

中期経営計画「IK2013」を終えて

当社は、2014年3月期を最終年度とする3か年の中期経営計画「IK2013」を2011年度に策定し、その達成に向けて取り組んでまいりました。

	目標	最終年度実績
連結売上高	5,500億円	5,611億円
営業利益	100億円	109億円
経常利益	100億円	124億円
当期純利益	60億円	86億円
自己資本比率	29.1%	37.7%
ROE	7.4%	8.1%
ネットD/Eレシオ	0.72倍以下	0.46倍

営業利益109億円を達成

最終年度の実績は、上図のように目標の売上高5,500億円、営業利益100億円に対して、それらを上回り過去最高となる売上高5,611億円、営業利益109億円を達成しました。また、経常利益、当期純利益も過去最高となりました。主要な指標として、営業利益の目標達成は、円安という追い風はありましたが、主力事業を中心に着実に成長を果たし、収益力を向上させることができた結果と考えます。一方で、資本効率を高め、財務面の安定性も向上したことにより、ROE、自己資本比率、ネットD/Eレシオといった経営指標も目標値をクリアしました。

アジアにおけるビジネスの拡大

重点地域としたアジアにおいては、液晶関連などの情報電子事業や自動車・OA関連などの合成樹脂事業を中心にビジネスが拡大しました。中でも現地企業や欧米系など日系以外の企業との取引を伸ばすことができたのが大きな収穫です。

樹脂コンパウンド事業の展開

2012年より、メキシコ、フィリピンと相次いで樹脂コンパウンド生産拠点を設立しました。自動車産業の伸びが期待されるメキシコでは、同分野への事業拡大の足がかりができたと考えます。また、フィリピンでは、OA分野向けのビジネスをより強固なものにします。

当社の樹脂コンパウンド生産拠点は、7か国8拠点、年産能力は20万トン強となります。

継続して取り組むべき課題

一方で、新興国市場として注力したインドでのビジネスや環境エネルギー分野として育成を進めた二次電池関連のビジネスなどは、目標とした伸長に至りませんでした。今後も長期的視野に立って積極的に取り組んでいきます。

また商社にとって最重要課題ともいえる人材の育成にも、引き続き強化・育成を進めていく方針です。

新たな飛躍を目指して

■ 中期経営計画「New Challenge 2016」スタート

当社は、このほど2014年4月をスタートとする、新たな3ヵ年中期経営計画「New Challenge 2016」を策定いたしました。2017年3月期、売上高6,200億円、営業利益125億円、経常利益135億円、当期純利益100億円の達成を目指します。

※中期経営計画「New Challenge 2016」の詳細は7ページをご覧ください。

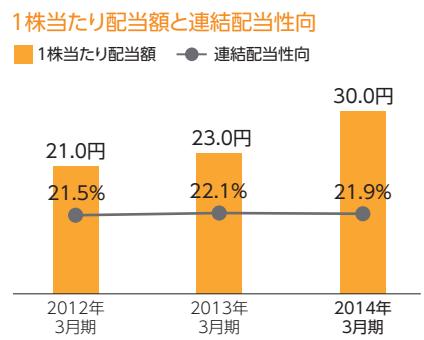
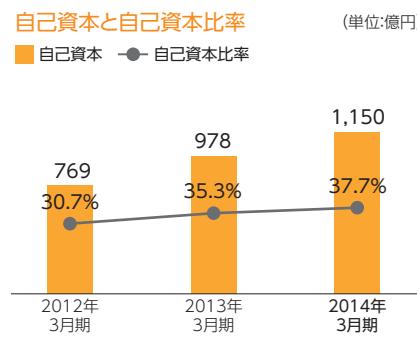
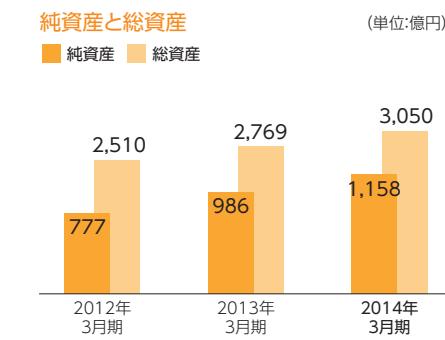
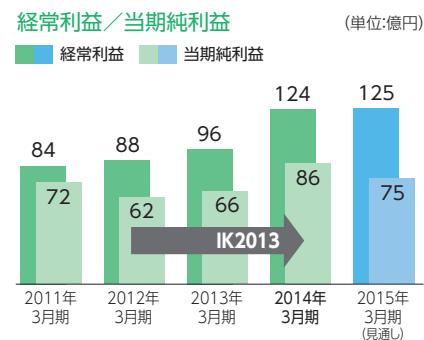
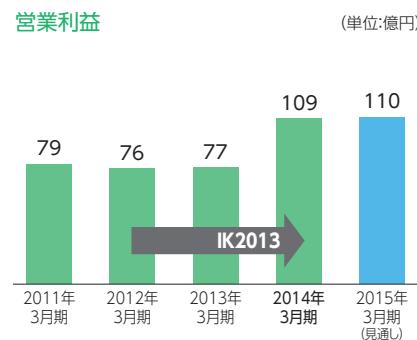
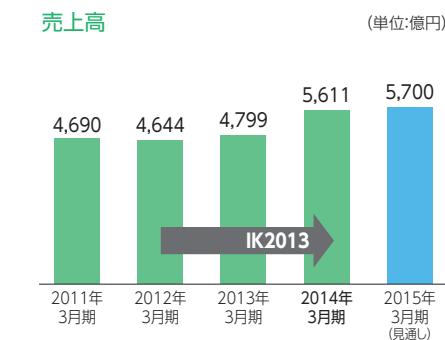
株主の皆様へ

■ 配当について

当期の期末配当金につきましては、1株当たり19円とさせていただきます。すでに平成25年12月2日に実施済みの中間配当金1株当たり11円とあわせて、年間配当金は1株当たり30円となります。

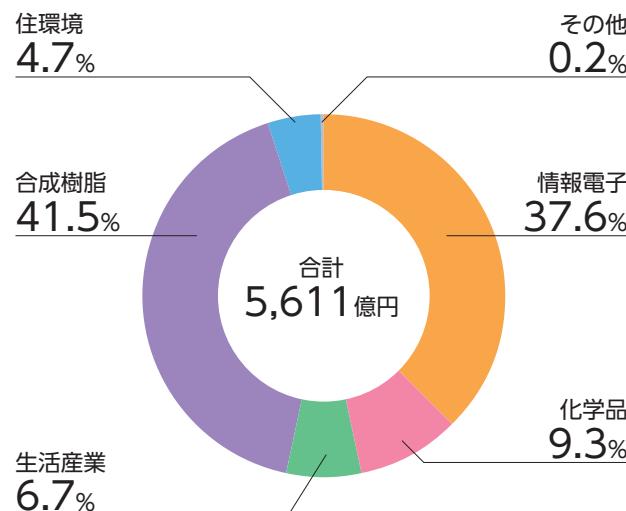
当社グループ一丸となって新たな目標達成に向けて邁進する所存です。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

2014年6月

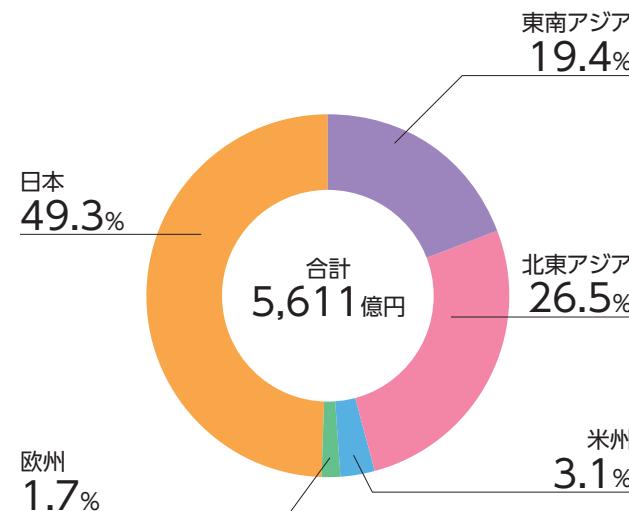


注)2013年3月期実績は、会計方針の変更に伴う遡及修正後の数値を記載しております。

■ 事業区分別売上高構成比 (2013年4月1日~2014年3月31日)



■ 所在地別売上高構成比 (2013年4月1日~2014年3月31日)

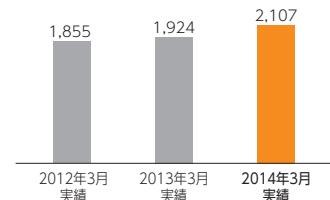


情報電子事業

世界各地の拠点と連携し、原材料だけでなく、二次加工やワールドワイドのサプライチェーン構築などの機能をご提供します。

- 液晶を中心としたフラットパネルディスプレイ (FPD)、LED関連向け部材の販売。メキシコのグループ会社では、FPD用光学シートなどの加工も行っています。
- 複写機・プリンター向け、トナーやインクの原料、カートリッジなど各種関連部材の供給や物流管理。
- 太陽電池や各種二次電池、半導体分野において、原料からプロセス材料、製造・検査装置、受託加工、検査など。

■ セグメント別売上 (単位:億円)



当期の情報電子事業

売上高 **210,703**百万円 (対前期比9.5%増)

セグメント利益 (営業利益) **4,863**百万円 (同49.7%増)

液晶関連では、スマートフォンやタブレット端末の堅調な成長を背景に、国内外共に関連部材の販売が好調でした。

インクジェットプリンター関連では、産業用分野での関連部材の販売が伸長しました。

複写機関連では、国内の新規部材の販売が増加しました。

太陽電池関連では、新規部材やメガソーラー関連のビジネスが伸長しました。二次電池関連では、電池材料の販売が軌道に乗り始めました。

半導体関連では、装置類の販売が低迷しましたが、関連材料の販売は伸長しました。

セグメント別概況

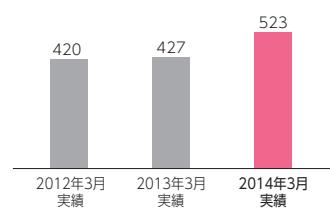
Business Segment Review

化学品事業

マーケット、商材の専門知識に加えて物流関連の機能をいかし、顧客のニーズに合わせた最適なソリューションをご提案します。

- スペシャルティケミカル部門／自動車部品から電子材料まで多岐にわたる業界にて、高性能化学品をグローバルに展開。
- パフォーマンスケミカル部門／塗料・インキ、接着剤、製紙分野向け各種原材料の販売。タイのグループ会社では、ニトロセルロース(硝化綿)を製造、また、中国では、塗料原料の希釈加工などを行っています。

■セグメント別売上 (単位:億円)

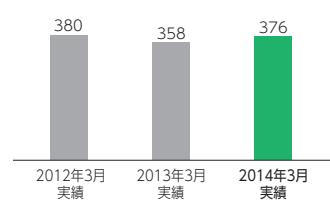


生活産業事業

ライフサイエンスと食品を通じて、人々のより健康で快適な生活に貢献します。

- ファーマケミカル部門／医薬原料や有機合成受託など製薬分野に特化。フランスのグループ会社では、医薬中間体や電子材料向けの化学品を開発・製造しています。
- 環境・ファインケミカル部門／防虫・殺虫剤や芳香・消臭剤など、家庭用品分野にて、企画から製品の供給まで。
- 食品部門／安心・安全な水産物、農産物を世界中から提供。国内グループ会社では材料の加工も行っています。

■セグメント別売上 (単位:億円)



当期の化学品事業

売上高 **52,398**百万円 (対前期比22.4%増)
セグメント利益(営業利益) **862**百万円 (同154.3%増)

スペシャルティケミカル関連では、自動車分野向け商材の販売が伸長しました。樹脂原料・添加剤関連では、特殊樹脂や特殊ゴムの原料輸出が増加しました。

パフォーマンスケミカル関連では、塗料・インキ業界向けニトロセルロースやウレタン原料の販売が順調でした。製紙・段ボール関連では、各種澱粉の販売が伸長しました。中国では、自動車向け塗料の原料販売が伸長しました。

当期の生活産業事業

売上高 **37,653**百万円 (対前期比5.0%増)
セグメント利益(営業利益) **1,745**百万円 (同17.0%増)

ファーマケミカル関連では、臨床中の新薬中間体やジェネリック薬用途の開発に注力しましたが、販売は微増でした。

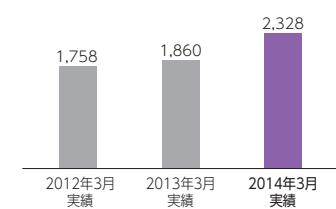
環境・ファインケミカル関連では、ホームプロダクツ分野が伸長しましたが、殺虫剤分野は横ばいでした。食品関連では、国内向けブルーベリーや冷凍野菜類などの販売が堅調でした。ウニ、エビなどの水産物は、国内向け販売が減少しましたが、米国ではエビの価格上昇やサーモンなど新規商材の販売増により好調に推移しました。また、中国では韓国やタイ向けに冷凍フルーツや水産品のビジネスが始まりました。

合成樹脂事業

国内外のネットワークとグループ内のメーカー機能を活用し、材料の選定から加工に至るまで顧客をトータルにサポートします。

- 日用雑貨、家電、自動車等の分野向けに、汎用樹脂からエンブレまで各種合成樹脂材料の取扱い。
- 世界7か国8工場において樹脂コンパウンド加工拠点を展開。
- フィルム、シート部門では、素材選定から加工、最終製品のパッケージングまでをサポート。国内外で製造・加工機能を持ち、お客様のニーズに応えます。

■セグメント別売上 (単位:億円)



当期の合成樹脂事業

売上高 **232,877**百万円 (対前期比25.1%増)
セグメント利益(営業利益) **2,828**百万円 (同23.1%増)

樹脂の国内販売は、家電分野を除き、土木・建築部材や自動車向けをはじめ概ね好調でした。

東南アジアでは、インドネシアやフィリピンなどを中心に、バイク、自動車、OA関連向けや飲料ボトル用の樹脂の販売が伸長しました。

北東アジアでは、中国において自動車、OA向け樹脂の販売が好調でした。

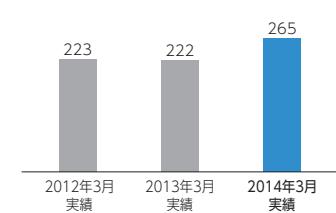
アジア各地の樹脂コンパウンド事業は、概ね堅調でした。

住環境事業

原材料の調達から最終製品までの加工、物流をトータルに担う「一貫ビジネス」を展開、安心して使用していただける商材をお届けします。

- 住宅建材部門／ハウスメーカーや建材メーカー向けに、集材材、パーティクルボード等の環境配慮型商品を国内外から調達。
- 環境資材部門／住宅設備機器メーカーを中心に、接着剤・断熱材原料等の化成品や合成樹脂、住設機器関連製品など、原材料から半製品、製品まで、あらゆる商材をお届けします。

■セグメント別売上 (単位:億円)



当期の住環境事業

売上高 **26,511**百万円 (対前期比19.1%増)
セグメント利益(営業利益) **343**百万円 (同115.1%増)

住宅建材関連では、ハウスメーカーや建材メーカー向け資材の販売が好調でした。また輸入木材と木質ボードの販売も堅調でした。

環境資材関連では、住宅設備機器メーカー向けの化成品原料の販売は不振でしたが、木質建材の販売は好調でした。

※2012年4月よりセグメント区分を変更いたしました。各情報は変更後の区分に基づき作成しております。

中期経営計画「New Challenge 2016」

「価値ある存在としてワールドワイドにビジネス拡大を目指す」

当社は、このほど2016年度を最終年度とする、新たな3か年中期経営計画「New Challenge 2016」を策定いたしました。

この計画は「海外事業の更なる拡大と深化」をはじめとする6つの重点施策を掲げて、最終年度の2017年3月期に売上高6,200億円、営業利益125億円、経常利益135億円、当期純利益100億円の達成を目標としております。

「人」と「情報」により国内外で連携を深め、顧客に価値ある存在としてワールドワイドにビジネス拡大を目指します。稲畑産業グループの未来に向けた新たな挑戦です。

「New Challenge 2016」の重点施策

1 海外事業の更なる拡大と深化

- 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化
- アジア以外の新興国への取り組みの拡大
- 非日系企業との取引の拡大

2 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

- 自動車分野、環境・エネルギー分野、ライフサイエンス分野への注力
- 新規取引先、新規商材を拡大し、収益の多様化を着実に進める

3 グローバル経営のインフラ整備・拡充

- グローバル経営を支えるリスク管理・経営管理手法の整備
- 情報システム、業務プロセスのグローバルな標準化の推進

4 将来の成長に向けた投資の実施

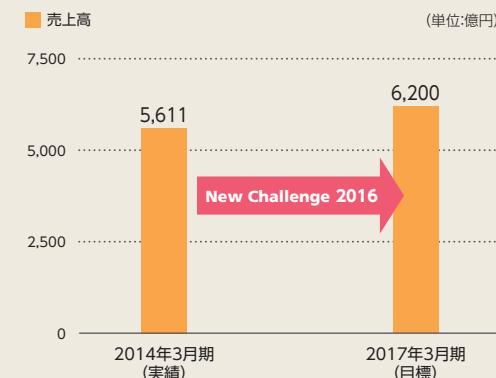
- 今後3年間の投資枠を100億円に設定

5 資金効率・資産効率の更なる追求と財務体質の強化

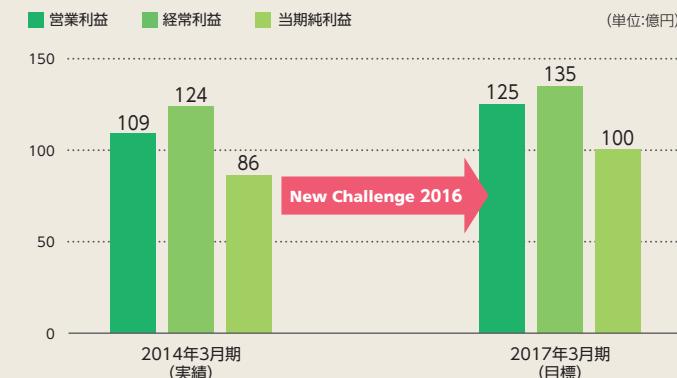
6 グローバル人材の継続的な育成

中期経営計画「New Challenge 2016」の各目標数字

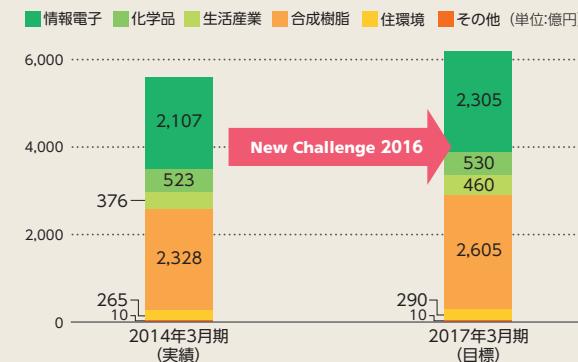
売上高



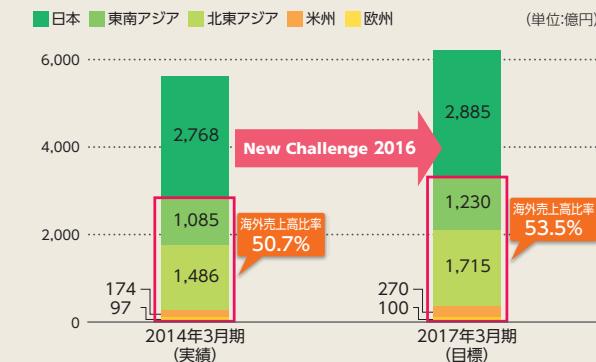
営業利益、経常利益、当期純利益



事業区分別売上高



所在地別売上高



経営指標

	2014年3月期 (実績)	2017年3月期 (目標)
ROE	8.1%	8.2%
ネットD/Eレシオ	0.46倍	0.45倍以下
自己資本比率	37.7%	38.0%

(想定為替レート 1USD=100円)
 ※ネットD/Eレシオ=(有利子負債-現金)/自己資本

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末 2013年3月31日現在	当期末 2014年3月31日現在	増減額
流動資産	197,308	214,659	17,350
固定資産	79,629	90,378	10,749
資産合計	276,938	305,037	28,099
流動負債	150,463	155,076	4,612
固定負債	27,808	34,080	6,271
負債合計	178,272	189,156	10,883
純資産合計	98,665	115,881	17,215
負債純資産合計	276,938	305,037	28,099

Point1: 流動資産の増加

商品及び製品、受取手形及び売掛金が増加した等のため、17,350百万円増加しました。

Point2: 固定資産の増加

投資有価証券が増加した等のため、10,749百万円増加しました。

Point3: 純資産の増加

利益剰余金の増加に加え、その他有価証券評価差額金が増加した等のため、17,215百万円増加しました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期 2012年4月1日～ 2013年3月31日	当期 2013年4月1日～ 2014年3月31日	増減額
売上高	479,942	561,173	81,231
売上総利益	33,002	38,511	5,509
販売費及び一般管理費	25,237	27,574	2,337
営業利益	7,765	10,936	3,171
営業外損益	1,838	1,518	△320
経常利益	9,603	12,454	2,851
特別損益	△122	287	410
当期純利益	6,630	8,669	2,038

Point4: 売上高の増加

円安も寄与し、アジア地域を中心に海外で売上が増加しました。

Point5: 営業利益の増加

売上高が増加した等のため、3,171百万円増加しました。

Point6: 当期純利益の増加

営業利益の増加、関係会社株式売却益が発生した等のため、2,038百万円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期 2012年4月1日～ 2013年3月31日	当期 2013年4月1日～ 2014年3月31日	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,400	△764	△20,165
投資活動によるキャッシュ・フロー	277	△5,467	△5,745
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,880	3,638	16,518
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,233	867	△366
現金及び現金同等物の増減額	8,031	△1,726	△9,758
現金及び現金同等物の期首残高	10,756	18,985	8,229
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	197	-	△197
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	-	1,143	1,143
現金及び現金同等物の期末残高	18,985	18,402	△582

注)在外子会社等の収益及び費用は、従来、当該在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当期より期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更しております。なお、前期(2013年3月期)はこれらの変更について遡及適用した金額を記載しております。

会社情報 / 株式情報

Corporate Information / Stock Information

会社概要

(2014年3月31日現在)

- 会社名 稲畑産業株式会社
- 創業年月日 1890年10月1日
- 設立年月日 1918年6月10日
- 資本金 93億6千4百万円
- 従業員数 602名(グループ会社への出向者を含む)
[連結3,577名]
- 大阪本社 大阪市中央区南船場一丁目15番14号
- 東京本社 東京都中央区日本橋本町二丁目8番2号
- 名古屋支店 名古屋市中村区名駅三丁目22番8号
- 営業所 松本営業所、九州営業所(霧島市)

役員

(2014年6月25日現在)

代表取締役社長	稲畑 勝太郎	常勤監査役	上 杉 隆
代表取締役専務執行役員	大槻 延広	監査役	鈴木 修一
代表取締役専務執行役員	西村 修	監査役	松山 康二
取締役常務執行役員	菅沼 利之	監査役	高橋 慶孝
取締役常務執行役員	赤尾 豊弘	執行役員	望月 卓
取締役常務執行役員	横田 健一	執行役員	杉山 勝浩
取締役常務執行役員	佐藤 友彦	執行役員	小田 吉哉
取締役	福林 憲二郎	執行役員	安江 範臣
取締役	高萩 光紀	執行役員	大橋 基雄
取締役相談役	稲畑 勝雄	執行役員	幡本 裕之

(注)1.取締役 福林 憲二郎及び高萩 光紀は、社外取締役であります。
2. 監査役 鈴木 修一、松山 康二及び高橋 慶孝は、社外監査役であります。

株式情報

(2014年3月31日現在)

[発行可能株式総数] 普通株式 200,000,000株
[発行済株式の総数] 普通株式 65,159,227株
[株主数] 4,579名

[大株主の状況](上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
住友化学株式会社	13,836	21.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,722	4.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,540	4.0
JP MORGAN CHASE BANK 385093	2,376	3.7
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	1,736	2.7
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,276	2.0
稲畑 勝雄	1,159	1.8
株式会社みずほ銀行	1,114	1.8
丸石化学株式会社	961	1.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	851	1.3

(注)当社保有の自己株式数(1,669,578株)につきましては、上記の表及び持株比率の計算より除いております。

<http://www.inabata.co.jp>

稲畑産業 投資家 検索

当社WEBサイト「投資家向け情報のページ」へ是非お越し下さい。

より詳しい財務データやIR情報を掲載しております。

詳しくは



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
その他必要がある時は、あらかじめ公告して定めます。
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 公告の方法 電子公告 当社のホームページに掲載します。
<http://www.inabata.co.jp/koukoku>
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第1部
- 証券コード 8098
- 単元株式数 100株
- 会計監査人 大阪市中央区瓦町三丁目6番5号
銀泉備後町ビル 有限責任 あずさ監査法人
- 株主名簿管理人及び特別口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031
(ホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

[株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について]

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。

[特別口座について]

株券電子化前にほふり(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。